

多面的機能支払(農地・水・環境保全向上対策)の紹介

「多面的機能の維持・発揮活動 第13回みえのつどい」が開催されました

令和4年12月3日(土)三重県総合文化センターにおいて、『明日につなごう、みえの宝』をテーマに第13回みえのつどいが三重県、三重県農地・水・環境保全向上対策協議会の主催で開催されました。

今回のつどいは、新型コロナウイルス感染症の蔓延による2年間の中止を経て、入場者数を制限するなど新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して3年ぶりに開催し、県内の活動組織や県内外の関係者約770名の参加がありました。

みえのつどいは、参加される多面的活動組織が他組織の活動事例や取組姿勢に触れることで、今後の農地・水・環境の良好な保全活動をより一層活発に取り組んでいたためのきっかけ作りの場としても活用いただいております。今回のつどいでは地域コミュニティや活動をより持続可能なものにするといった視点で、講師による基調講演及びパ

ネルディスカッションを行いました。

当日は三重県廣田副知事の主催者挨拶の後、農林水産省東海農政局小林局長及び三重県議会前野議長からご祝辞をいただきました。

その後、基調講演では、一級建築士のかたわら地域コーディネーターとして活躍されている、合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員 浅見雅之氏より「地域のリーダー／後継者の育て方～多様な担い手による持続可能な地域運営をめざして～」と題してご講演をいただきました。

基調講演では、「地域活動の担い手不足の解決には女性や若者、よその人たちなどの多様な主体の参画に目を向けるべきで、そのために世帯ではなく個人の活動への参加や会合内容がオープンになっていることが大切であり、その上で、誰が何を言っても怒られない会合が、新しい時代に存続していける地域の条件である」とお話いただきました。



廣田副知事の挨拶



開会式の様子



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

休憩後のパネルディスカッションでは、津市「上ノ村環境保全プロジェクト」の木村和正氏、多気町「多気町勢和地域資源保全・活用協議会」高橋幸照氏、玉城町「清し有田佐田沖環境保全会」大藪成明氏の3名のパネリストと基調講演を行った浅見雅之氏がコーディネーターとなり「持続可能な地域活動のヒント」と題しパネルディスカッションが行われました。

3名のパネリストによる活動紹介の後、質疑応答ツール「Slido」を活用し、会場からの質疑に適時対応する新しい形のパネルディスカッションを行い、継続的な活動に向けた取組事例を交えながら議論していただき、とても貴重で有用なアドバイスをいただくことができました。



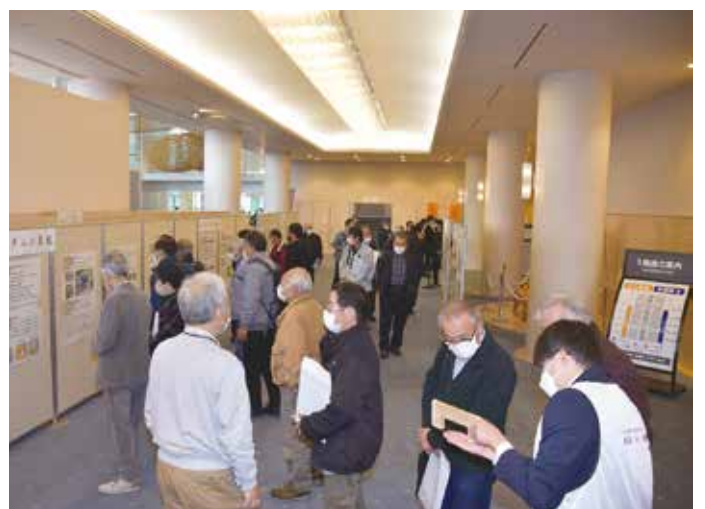
大ホールロビーの様子

資源向上活動の「機能診断、補修技術等の研修」と位置づけられたレセプションでの企業PR展示コーナーでは、農地や農業施設の維持に関する技術や製品の展示が行われ、多くの参加者が会場内に設けられた企業ブースを移動し、興味あるブースの担当者からおのこの疑問点等の説明を受けていました。

また、大ホールロビーには過去の優良活動表彰、活動組織紹介、田んぼダムの取組などの三重県からのPRが展示され参加者は時間の合間を見計らって見入っていました。

上記内容をもって、「第13回みえのつどい」は盛会裏に終了しました。

今後もこうした「みえのつどい」の場を通じて、県内の農地・水・環境の良好な保全活動を支援してまいります。



レセプションルームでの企業PR展示